

KITAGAWA MASTIC ASPHALT SERIES

K-MAS ベース Type:H

基層が病んでいませんか？

表層を排水性舗装に変えたことにより、基層以下の舗装が比較的早期に脆弱化するケースが増加しています。(右写真)

これまで基層に主として用いられてきた粗粒度アスコンは、直接雨水に曝されることを前提として設計されていません。

そこで今回、耐水性を向上させつつ、粗粒度アスコンと同等以上の耐流動性を有する、排水性舗装基層用セミ碎石マスチックベース

“**K-MASベース:H**” を提案します。



K-MASベース:H

概要

- 骨材粒度は、20mm以上のトップ粒径骨材を最大粒径とし、1.3～5mmの範囲の粗骨材を極力少なくすることにより、粗骨材の中でのギャップ粒度を造っています。
- 粗粒度アスコンの空隙率が5%前後であるのに対し、空隙率を4%以下にすることにより、水密性を向上させ、水に対する抵抗性を高めています。
- また、核となる粗骨材が十分に接し合い粗骨材骨格を形成するため、交通荷重によるニーディングに対しても骨材のずれが生じにくく、界面での物理的はく離が起きにくいものとなっています。



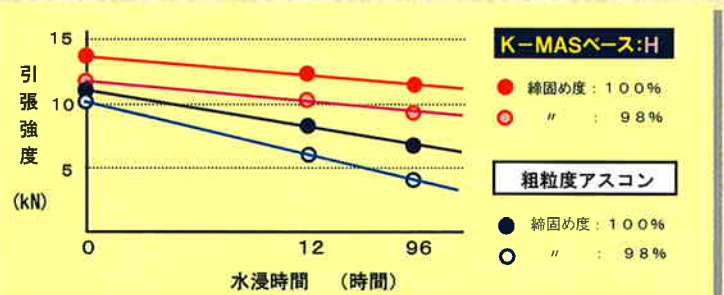
耐水性の評価

間接引張試験



マーシャル供試体を一定時間水浸(60℃)した後に間接引張試験を実施した結果が下のグラフです。粗粒度アスコンに比べ、水浸後の強度低下の割合が小さいのが分かります。

試験後の供試体の内部の状況が左写真です。粗粒度アスコンが供試体内部までではく離が進行しているのに対し、**K-MASベース:H**は、供試体の表面部分のはく離に留まっているのが分かります。



加圧透水試験

右グラフは1.5気圧、5時間の条件で行った加圧透水試験の結果です。**K-MASベース:H**は密粒度アスコンに近いレベルまで水密性を向上させています。

